

2021年度 豊岡市障害者自立支援協議会「しごと部会」報告資料

メンバー	<p>部会長：宮下 典子（NPO法人セルフサポートいずし 理事長） 副部会長：西村 弘文（NPO法人サポート欽 理事長） 部会員：佐藤 杏南（豊岡市障害者基幹相談支援センター）、岡森 吉彦（豊岡市社会福祉課 就労支援員）、 岡本 優嗣（豊岡市社会福祉課）</p>
------	--

会議	1回(7/27)、2回(8/23)、3回(1/18)、4回(3/2)
----	------------------------------------

期	現状と課題	今年度の方針	部会での取組	見えてきたこと	今後の取組方針
通年	<p>■新型コロナウイルスの影響により、障害福祉サービス事業所の作業減少による利用者の工賃減少や活動縮小につながっている。</p>	<p>■多様な働き方を推進する。</p>	<p>【上半期】 ■農福連携の推進 昨年度に引き続き、市農林水産課と連携し、農業者と就労系障害福祉サービス事業所のマッチングを行った。 件数：2件 内容：ピーマンの収穫作業、播種作業 ■短時間雇用の推進 新型コロナウイルスの影響により、取り組めていない。 【下半期】 ■農福連携の推進 農閑期と重なった事、新型コロナの影響で農林課との協議の場が持てていない。 ■SNSの活用について ■就労系事業所間の情報交換会の開催 ※上記の件については新型コロナの影響で取り組めていない。</p>	<p>【上半期】 ■農業者によって単価が異なったり、農作業の内容によって単価が異なるなど、障害福祉サービス事業所が取り組みにくい。 【下半期】 依頼する農業者は変わらなかったが依頼内容（作業内容）が増えた（苗箱洗い、除草、野菜の収穫、苗の植え付け、じゃがいもの芽かき、収穫物の販売など）。 価格設定ができていない等不安定な状況下ではあるが実践を重ねていく事の効果が見えてきた。 ■取組の困難さ ・新型コロナの影響により就労支援や施設内での作業確保の課題は変わらず継続しているが、施設（事業所）の考え方や取組も多様なため、部会としての活動、取組も困難になってきている。 ・既存のネットワーク（但馬障害者通所施設連絡会、たじまびっくりばこ等）で、既にしごと紹介やバザー開催、情報交換等をされている。</p>	<p>【上半期】 ■単価や相場設定についての検討会を開催する。 ■農福連携の情報について、SNSを活用して、障害福祉サービス事業所へ周知する。 【下半期】 しごと部会の活動の見直しが必要である。</p>

2021年度 豊岡市障害者自立支援協議会「こども部会」報告資料

メンバー	部会長：福田 寛子（豊岡市健康増進課 およこ支援室） 副部会長：稲津 慎也（北但広域療育センター 支援課長） 部会員：時 沙菜（障害者基幹相談支援センター）、島田真弓（出石精和園げっと）、大野 直人（そらまめはうす）、古川 晴次（ひみつきち）、西村 尚司・辻井 亜紀（ことぶき苑相談支援事業所）、岡本 優嗣・細見 貴誠（豊岡市社会福祉課）
------	---

会議	1回（7/19）、2回（9/17）3回（12/8）
----	---------------------------

期	現状と課題	今年度の方針	部会での取組	見えてきたこと	今後の取組方針
通年	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの成長や発達に悩みのある保護者が孤立しないよう、またその悩みや不安感を軽減することができるような保護者同士のつながりの場が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者同士の横のつながりを広め深める場として「お話カフェ」を年間3回、開催する。 	お話カフェ 【上半期】 ①9月27日（月）立野庁舎 参加者7名 スタッフ7名 内容：豊岡市の福祉サービスについて、座談会 【下半期】 ②11月19日（金）らみい 参加者4名 スタッフ7名 内容：放課後等デイサービスについて、座談会 ③1月12日（水）立野庁舎 参加者4名 スタッフ8名 内容：お家でできる療育の工夫について、座談会	<ul style="list-style-type: none"> 就学や進学、就労についての情報をもっと知りたい。 就労に必要なロードマップがあると、子供に何をさせる必要があるか見通しがつく。 小学校までは、手厚い支援を受けられるが、中学校以降が心配である。 特別支援学級の登下校の送迎している。どうなれば集団登校ができるのか。目安を示してほしい。 特別支援学校は、近隣までバスが来てくれるようになったものの、そこまで保護者が送迎が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> こども部会に教育関係者も参加してもらおう。 コロナ禍で参加者数も減少しており、PR方法を要検討（講座内容を事前にチラシでPRする等）
	<ul style="list-style-type: none"> 事業所間・相談員間での情報共有や連携が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童に係る事業所間の情報交換会を実施する。 	【下半期】 情報交換会 日程：令和4年1月27日（木）参加者：10名（予約は20名） 内容：各事業所の特徴を発表、関係機関との連携等の困りごとについてグループワーク	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達支援が一杯で、タイムリーに利用ができない。療育の見学をしても、入れないので親が焦る。 親の悩み相談やフォローが必要。 通所事業所卒業後の、児童の成長に応じた適切なつなぎ先・相談先がわからない。 小学校高学年～高校生の行ける放課後等デイサービス等居場所が少ない。 保育所等訪問実施機関が限られている。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ禍で参加者数が少なかったが、参加者からは有意義であると好評のため、継続実施
	<ul style="list-style-type: none"> 児童発達利用者に相談員がつくことができず、セルフプランとなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> セルフプランの方が、事業所を選択しやすくなるような冊子を作成する。 	【上半期】 ・各事業に、PRのため、資料作成を依頼済。 【下半期】 ・冊子を作成中3月完成予定	<ul style="list-style-type: none"> 新規相談を受け入れできる相談支援事業所が少ない。 児童の新規利用者は、セルフプランとなっており、通所事業所を選択する材料がない。 空き状況がわからず、電話をかける負担感がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 冊子を利用申請時に配布、HP上にアップする。

2021年度豊岡市障害者自立支援協議会「せいかつ部会」報告資料

メンバー	<p>部会長：山本 直（基幹相談支援センター 課長補佐） 部会員：木村 尚子（一般社団法人暮らしの学校 農楽 代表理事）、谷 友紀子（生活支援センターほおずき 施設長）、増田 浩平（NPO法人でかけ隊 代表）、梶原 博和（豊岡市社会福祉課）</p>
------	---

会議	<p>1回(4/13)、2回(6/18)、3回(7/27)、4回(9/24)、5回(12/17)、6回(1/18)</p>
----	---

期	現状と課題	今年度の方針	部会での取組	見えてきたこと	今後の取組方針
通年	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関受診に支援が必要な場合、家族が対応できない事が増えている。 ・家族に代わって院内介助を行う支援サービスがない。 ・ヘルパーによる「通院等介助」「通院等乗降介助」は自宅での受診準備から医療機関まで送るまでの支援だが、事情を鑑み特例的に院内介助を認めているケースはある。しかし、ヘルパー事業所としては対応が困難な事が多い。 ・現状はサービス事業所の支援員や相談支援事業所の相談員が対応せざるをえないことも少なくない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・医療機関受診にかかる支援 ・人材不足解消の方策について検討する。 	<p>【受診に係る支援の実態調査】 期間：令和3年6月7日～6月17日</p> <p>調査対象：相談支援事業所、就労継続支援事業所、共同生活援助、地域活動支援センター、居宅介護事業所の31法人</p> <p>内容：令和3年3月～5月の間の受診の同行での回数等の内容等について調査を行った。</p>	<p>【医療機関の職員による介助の実情の聞き取り】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・院内介助を対応したいが、マンパワー不足でできない。 <p>【受診に係る支援の実態調査】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・共同生活援助、相談支援事業所の支援実績が多い。 ・受診支援が必要な方は、年間に換算すると1000件程度で9割が定期受診。 ・支援内容については身体的な介助は少なくコミュニケーション支援と移動支援が多い。 ・支援内容については「医師への状況説明」が一番多かった。 ・受診は精神科が4割を占めており支援区分はさまざま。 ・区分が低ければ支援者の負担が少ないとは限らない。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市の移動支援制度は始点終点が自宅のため利用しにくい。 ・調査による支援内容の結果から医師への状況説明が困難と思うのが一番多い事から本人の体調や変化を医師に伝えられるような事が必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の情報が共有できるよう、よく聞かれる項目などを整理した様式（体調報告書）を各事業所へ配布。 ・院内のガイドヘルパーの人材育成について検討 ・病院送迎、院内付き添い等の受診に係る全体的な支援の検討と提言のまとめ。 ・実態調査結果に基づき課題を整理し、対応策について、豊岡市への提案をまとめる。 別紙（利用者の受診支援に関するアンケート集計結果）を参照。